

■学校経営のポイント

肯定的評価の勧め

小島 宏

各種調査（国の学習状況調査、各学校の校内研究に伴う実態調査、TIMSS や PISA 等）によると、日本の子供は、肯定的自己理解が低い、できるのに自信がない、将来に希望を持っていない、学習に有用感がない、学習を自己の目標実現のためと捉えていない等が課題として指摘されている。

そこで、子供に自信を持たせ、学習の意義や将来に向かって意欲的にする方策が求められる。

2つの対照的な体験

3年の国語の時間、Nさんが元気よく作文を持ってきた。原稿用紙のマス目から字がはみ出し、踊るような乱雑さである。「ずいぶん乱暴な字だね。もっと丁寧に書こうね。でも、いい作文だね。様子がとてもよく書けているよ」と言ったとたん、わっと泣き出し、新米教師の私には、しばらくの間、Nさんのニコニコ顔を取り戻すことができなかった。

教師7年目、5年の算数の時間、Mさんが「分からない！」とクシャクシャにした学習シートを持ってきた。「なかなかいいぞ、図にかいていてすごいぞ。でもちょっと乱暴だ。問題に合わせて丁寧に書かないと考え方は見つからないよ」と言ったら「OK！」と学習シートをひらひらさせながら自席に戻り、何とか解決することができた。

どちらも、1つほめて、1つ注文を付けたのに、子供の受け止めは全く正反対であった。私は、この経験を通して、「よい所を見つけてほめてから、もっとよくなるように注文を付ける」という「肯定的評価」の効果を実感したのである。

子供に対する肯定的評価の効果

子供にあらかじめ100点を与えておき、そこから失敗やつまずきをするごとに減点していく評価を、空の器を与えておきうまくいったことや工夫したことを加点する評価へ転換することが重要である。

子供は認められ、ほめられることによって、自信を持ち、自分のやるべきことや進むべき方向を自覚でき意欲的になっていく。そして、自分をよりよくしていくために、不十分なことやもっとやるべきことにも自分から素直に取り組むようになり、他人の苦言や注文も心を開いて聞くようになる。

この事実から肯定的評価の効用を帰納し、以来肯定的評価（よい点を大きく評価し、さらによくするために注文を付ける）を実践している。

保護者にも肯定的評価は効果があった

肯定的評価を保護者面談で試みたことがある。1学期は、はじめにもっと良くしたいと注文を1つ付け、その後で、良い点を2つほめたところ、保護者の大部分は硬い表情で退室していった。

2学期は、1学期とは逆に、先に2つほめ、その後1つ注文を付けたところ、「大変お世話になりました。家庭でも気を付けますのでご指導よろしくお願ひします」などと、多くの保護者が明るい表情で退室していき、違いの大きさに驚いた。

教師も肯定的評価で伸びた

若手教師の経験不足による不十分さは、当然で、責めやボヤキの材料にはならない。若手教師にも肯定的評価を励行したいものである。

そこで、若手教師には、きちんと指導し、それについて完璧さより進歩した部分を見つけ、認め、ほめ、成長を自覚させ意欲を高めるようにする。

そして、もっとよくなるように、若干の注文を簡潔に付け、研修を促すことが必要である。

このことは、中堅教師やベテラン教師に対しても原理は同じで、肯定的評価は、子供も教師も前向きにする妙薬であると確信している。

（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●校長のスケジュール管理から学校マネジメントまでを1冊で完全網羅！《2015年1月発売》

2015 スクール・マネジメント・ノート

【監修】小島宏／【企画・制作】教育開発研究所 A5判・300頁／定価（本体2,200円）＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488 をご利用ください（24時間受付・即日発送）